

## 日本語情報システムJEFのJEF II への移行について(2) ： 文書処理システムODMの使用法

石氷, 結花  
九州大学大型計算機センター研究開発部

河津, 秀利  
九州大学大型計算機センター業務掛

平野, 広幸  
九州大学大型計算機センター業務掛

松永, ナツキ  
九州大学医学部総務課

他

<https://doi.org/10.15017/1468122>

---

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 18 (4), pp.289-302, 1985-07-25. 九州大学大型計算機センター  
バージョン：  
権利関係：



日本語情報システム J E F の J E F II への移行について (2)

— 文書処理システム ODM の使用法 —

石氷結花\*, 河津秀利\*\*, 平野広幸\*\*, 松永ナツキ\*\*\*, 桜井尚子\*\*\*\*, 矢次恵美子\*\*\*\*, 武富 敬\*

= 目次 =

1. ODMの開始と終了	304
1. 1 ODMの開始	304
1. 2 ODMの終了	305
2. 属性定義	305
2. 1 P Fキーの設定	305
2. 2 私用ライブラリの設定	307
3. 文書の作成と保存	307
3. 1 環境定義	308
3. 2 文書形式の制御	309
3. 3 文書情報の設定	310
4. 文章の入力と編集	312
4. 1 文章の入力方法	312
4. 2 文書の編集	313
4. 3 私用辞書の使用法	333
5. 文書の印刷	334
5. 1 文書形式の制御	335
5. 2 印刷条件の指定	335
6. メール機能	337
6. 1 メール発信	337
6. 2 メール受信	338
7. おわりに	342
付録 1. F D M S / J E F コマンド一覧	343
付録 2. ODMの目的別パネル操作手順	346

\* 九州大学大型計算機センター 研究開発部

\*\* 同 業務掛

\*\*\* 現 九州大学医学部 総務課

\*\*\*\* 富士通 S E (九州支店)

本解説は、ODMによる原稿を写真版にしたものである。

1. ODMの開始と終了

1. 1 ODMの開始

文書処理システムODMの使用は、日本語が使用可能な端末に限られる。TSSのコマンドモードでコマンドODMを投入することにより開始される。ODMの使用に際しては特に環境設定は必要ないが、メール機能(後述6.)を使用して文書の受信を行うときには、リージョンサイズが3メガバイト以上必要であるので、セッション開設時に考慮されたい。以下に、ODMコマンドの使用例とODMの最初のパネルを示す。

```
LOGON TSS F9999/パスワード S(3000)
```

```
:
:
```

```
READY
```

```
ODM
```

```

-----< 文書処理システム初期パネル >-----
処理選択==> 0                パスワード==>
                                ユーザID=F9999   時刻-10:08
0 属性定義      -  私有ライブラリの設定, 文書処理システムの属性の定義
1 文書作成      -  新規文書の作成・編集
2 文書更新      -  既存文書の更新
3 既存文書の処理 -  文書の表示, 印刷, 削除, 複写, 移動, メール発信,
                                文書の取出し, 文書情報表示, 文書情報変更
4 メール受信    -  受信メール(個人宛, メールボックス宛, 掲示板)の処理
5 その他の機能  -  文書の登録, 文書情報一覧印刷, 発信簿処理,
                                宛先リスト処理, 印刷依頼取消し, 受信状況確認
6 使用方法の説明 -  文書処理システムの使用法の説明
7 PFD          -  PFDの呼出し
X 終了          -  文書処理システムの終了

私有ライブラリ: UNDEFINED

'END'キーを押すことにより, 文書処理システムは終了する.

```

図1. 1 文書処理システム初期パネル

このパネルに現われた処理項目がODMの機能のすべてであり、いずれかを選択することで処理は進められる。本稿では、これらの中から中心となる 文書の作成～編集～印刷～送受信 までの基本的な処理の流れをパネルの遷移に従って紹介する。なお、パネル中の表示部分と入力部分との区別をつけるために、入力部分にはアンダーラインを付加している。ODMの機能と使用法については、マニュアル[1, 2]を参照されたい。また、比較的良好に使われると思われる機能を中心とした操作の手順書を「付録2. ODMの目的別パネル操作手順」として掲げ、本文の中でも関連する項目番号を【付録2-X】として引用しているので参照されたい。

## 1. 2 ODMの終了

ODMを終了するには、先述の「文書処理システム初期パネル」(図1. 1)まで戻って、

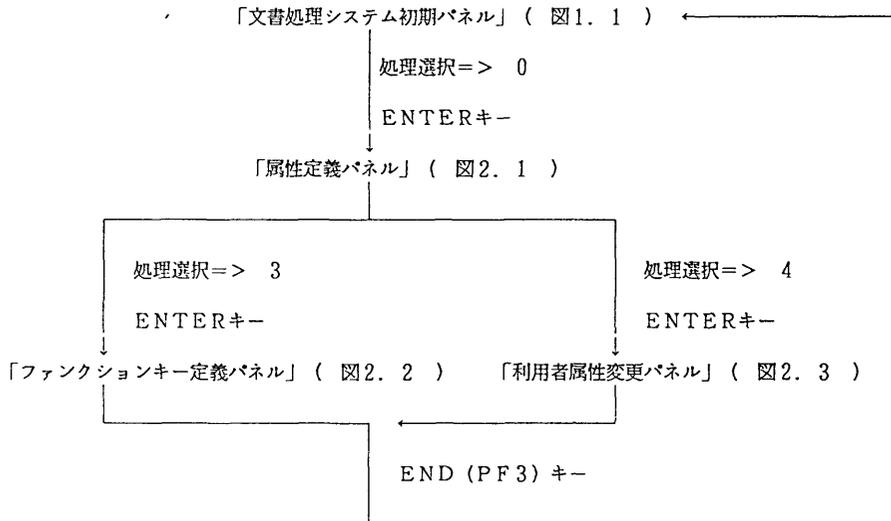
①ENDキー(PF3)を押す。

②項目Xを選択する。

のいずれかの方法をとる。このとき、ODMの中でログを採取したりPRINTキーを使用していれば、TSSのREADY状態に戻る前に、「PF3終了パネル」が現われるので、処置オプションを指定する必要がある。

## 2. 属性定義

ODMに入って必ず行わなければならない属性定義が2つある。それらは、ODMで対話的に処理を進めるために有用な「プログラム・ファンクション・キー(PFキー)」の定義と、ODMで対象とする文書データセットの「私用ライブラリ」の指定である。このうち、PFキーの定義は1度行っておけば以後ODMを使用するときには常に有効であるのに対して、私用ライブラリの指定は毎回行う必要がある。以下に双方の設定のための手順を示す。



## 2. 1 PFキーの設定 【付録2-3】

ODMでは24個のプログラム・ファンクション・キー(PFキー)が使用できる。パネルの操作性や文書編集集中の行コマンド投入の煩雑さ軽減のために、これらのPFキーに使用頻度の高い機能を対応付けておくと効率よく処理を進められる。PFキーには、あらかじめいくつかの機能が標準値として与えられている。しかし、それらにはODMでは無効な機能(SWAP, SPLIT)もある一方、PFキーに割り付けてお

かなければ使用できないコマンド (RESET, RETRY) が定義されていない。そこで、ODMを最初に使用する際には必ず、前述の手順でPFキーの設定を行う必要がある。図2. 2の「プログラムファンクションキー定義パネル」で、下線部分があらたに設定したODMのコマンドである。なお、ODMからPF Dを使用する際にもこれらの設定が有効なので、通常のPF Dのアトリビュートには戻らないことに注意されたい。

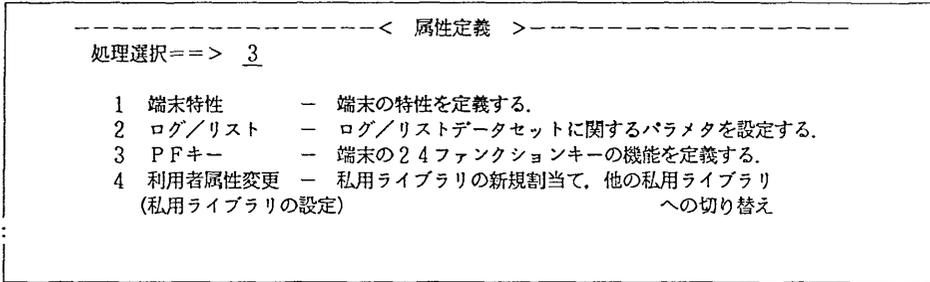


図2. 1 属性定義パネル

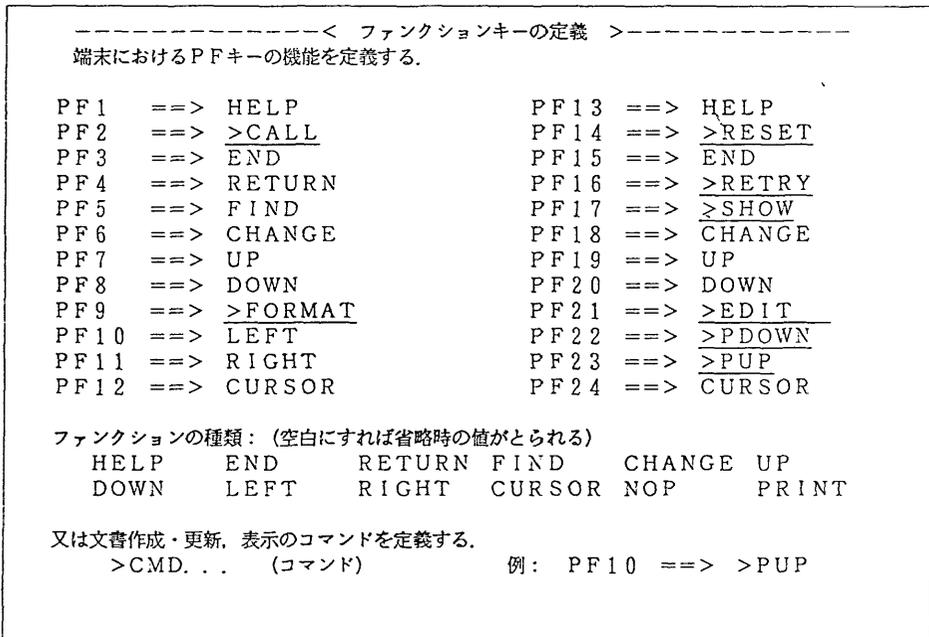


図2. 2 プログラムファンクションキー定義パネル

これらの中では、HELP機能が利用価値が高い。ODMでは、入力値が不合理であればパネルは次へ進めないで、そこでPF1 (HELPキー) を押すと、どのパラメタがどんな理由で誤っているかを知ることができる。また、いくつものパネルを経由して初期パネルに戻る手間を省くには、RETURN機能を割り付けたPFキーを使用するとよい。その他、それぞれの機能の詳細はマニュアル[2]を参照されたい。

## 2. 2 私有ライブラリの設定 【付録 2-4】

ODMでは、文書を「私有ライブラリ」と呼ばれる区分データセットで管理している。そのため、文書処理を行うためにはまず対象とする私有ライブラリを、「利用者属性変更パネル」(図 2. 3)で指定する。

このパネルにおいて、既存の私有ライブラリを使用する時にはデータセット名を与えるだけでよい。新規に作成する時には、データセット名を与えた上で処理「1」を選択し、必要であれば各種割り当てトラック数の省略値を変更する。なお、ODMの私有ライブラリは通常のソース形式の区分データセットと違って、ディレクトリの1ブロックには3メンバ(3文書)しか持たないので、このことを考慮してディレクトリブロック数を決定する必要がある。

私有ライブラリは、ODM外の一般データセットと同じように必要に応じて何個でも作成できる。ちなみに、そのDCB(Data Control Block)は以下の通りである。

- ・レコード形式 VB
- ・レコード長 258バイト
- ・ブロックサイズ 2048バイト

```

----- < 利用者属性変更パネル > ----- 変更成功

私有ライブラリの設定

***私有ライブラリ名 ==> ' F 9 9 9 9 . O D M . T E X T
                               (完全修飾名指定、ただし'は除く)
処理選択 ==> 1

1. 新規割当ての時、上記***の部分に私有ライブラリ名を指定。
   かつ必要なら以下を指定。
   スペース割当て (初期量) ==> 10          (TRK, 省略値: 10)
   スペース割当て (増分量) ==> 5          (TRK, 省略値: 5)
   ディレクトリブロック数 ==> 10         (省略値: 10)

2. 私有ライブラリの切り替えの時、上記***の部分にそのライブラリ名
   を指定。

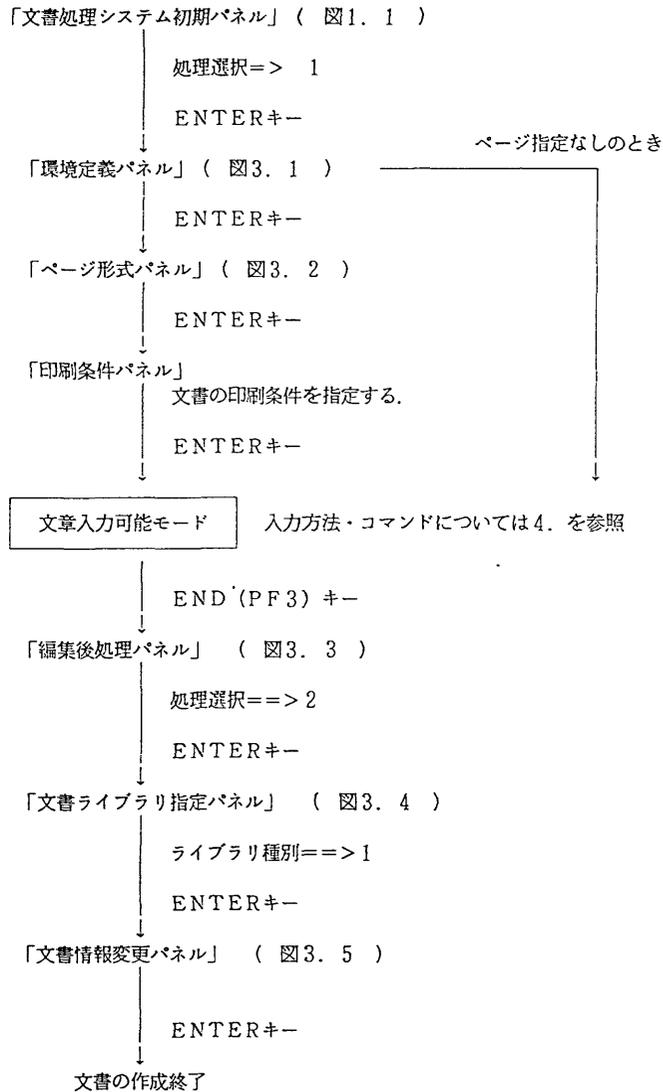
```

図 2. 3 利用者属性変更パネル

## 3. 文書の作成と保存 【付録 2-5~9】

私有ライブラリの設定(作成)を終えて、初めのパネル(図 1. 1「文書処理システム初期パネル」)に戻ったら、文書の新規作成時には、項目「1」を選択する。このあと、文書の入力可能なパネルに行きつくまでに都合3つのパネルを経由する。このあたりが、NEDITコマンドでいきなりテキストの入力が可能なモードに入れた旧FDMSと違って、はじめは煩わしく感じるころではある。また、文書の作成を終了して私

用ライブラリに登録するには、さらに3つのパネルを経由する。それらの手順をまとめて以下に示す。



### 3. 1 環境定義

文書を作成する際に、必要な環境を「環境定義パネル」(図3. 1)で整えるが、特に利用価値が高いのは、私用辞書と自動退避機能である。

ODMでは、私用辞書が使用できる。専門的な文章の場合、特殊な用語ばかりを多用するため基本辞書では満足が行く変換ができない。そこで、私用辞書にこれらの専門用語や固有名詞を登録しておく、見出しの入力だけで引き出せるので効率が良い。私用辞書の作成についての詳細は、4. 3を参照されたい。

また、ODMではバックアップデータセットが利用できる。図3. 1で自動退避機能を「動作」させ、「退避ファイル名」として既存でない順データセット名を与えておくと、このデータセットにある程度の修正ごとに文書が自動的に退避される。この退避を人為的に行うのがSAVEコマンドであり、文書の置き換えでなくバックアップデータセットに退避するだけなのが旧FDMSやPFDの場合と異なるところである。そのため、編集中に誤ってRETURNキーを押して初期パネルに戻ってしまったり、「編集後処理パネル」に何も指定せずENDキーで通過してしまった時などは、【付録2-21】の方法でこのバックアップデータセットから編集内容を回復するとよい。バックアップデータセットは、ODMの終了と同時に自動的に消去される。

----- < 環境定義 > -----			
辞書名	単語 (基本)	==>	' PFD. J D I C T L I B '
	パスワード	==>	
	単語 (私用)	==>	' F 9 9 9 9. P R V T. D I C T L I B '
	パスワード	==>	
	単語	==>	' PFD. K D I C T L I B '
	パスワード	==>	
テキストマクロ	ライブラリ名	==>	' F 9 9 9 9. O D M. M A C R O '
	メンバ名	==>	
	パスワード	==>	
文書データ	自動退避機能	==>	1 (1:動作 2:停止)
	退避ファイル名	==>	F D M S S A V E. A L L
	対象文書	==>	1 (1:本文 2:目次 3:索引)
	表示形式	==>	2 (1:編集 2:清書)
	ページ形式	==>	1 (1:指定あり 2:指定なし)

図3. 1 環境定義パネル

### 3. 2 文書形式の制御

「環境定義パネル」でページ形式指定ありの指示をすると、さらに「ページ形式パネル」(図3. 2)が現われる。ここでは、用紙や本文の大きさ、文字の大きさなどの情報を与える。このパネルは、文書の編集中でもFORMATコマンド【付録2-7】で呼び出して値の変更が出来るので、ここでは標準値のままでもよい。また、同パネルは文書の印刷時に經由する「ページ形式指定パネル」(図5. 3)にほぼ等しい。

----- < ページ形式 > -----		
用紙	形式 ==> 1	
	1 定型用紙 ==> 1	(1 : A4 2 : B4 3 : A5 4 : B5)
	2 非定型用紙 . . . . 縦 (行数) ==> 6 6	(42から108)
		横 (文字数) ==> 6 1 (10から136)
	方向 (A4またはB4) ==> 1	(1 : 縦 2 : 横)
	本文開始行 ==> 7	
	本文開始桁 ==> 6	
本文	段組 ==> 1	
	1 一段組	
	2 二段組 . . . . 段間文字数 ==> 0	
	行数 ==> 5 4	(6行 以上)
	一段当り文字数 ==> 3 9	(10文字 以上)
	行間隔 ==> 1	(1 : 6 LPI 2 : 8 LPI)
	行送り間隔 ==> 1	(1 : 1行 2 : 2行 3 : 3行)
	文字の大きさ ==> 1	(1 : 9ポ 2 : 12ポ 3 : 7ポ)
清書タイプ	==> 1	(1 : OPR 2 : HNLP, NLPE)
		(3 : NLP 4 : BGP, NPR)
		(5 : NDP, WDS, BGD, IDP)
	英小文字半角 ==> 1	(1 : 有 2 : 無)
	機能レベル ==> 1	(1 : 標準 2 : 拡張)
	イメージ出力 ==> 1	(1 : 要 2 : 不要)

図3. 2 ページ形式パネル

### 3. 3 文書情報の設定

文章は「4. 文書の入力と編集」で述べる方法とコマンドで作成（あるいは編集）していく。文章の入力はENDキー（PF3）の押下で終了し、「編集後処理パネル」（図3. 3）に移る。このとき、PF Dと違ってPF 3の押下が文書の保存まで行うのではないということに注意する必要がある。新規作成の場合、まずこのパネルで「2」の保存を選択して、新しい文書を私用ライブラリに登録する処理を行う。

----- < 編集後処理 > -----		
処理選択	==>	<u>2</u>
1 表示	-	文書の表示
2 保存	-	私用・共用ライブラリへの保存
3 メール発信	-	文書のメール発信
4 印刷	-	文書の印刷
5 再編集	-	文書の再編集
6 グラフ処理	-	グラフ組込み処理
7 置換え	-	元の文書との置換え

図3. 3 編集後処理パネル

```

-----< ライブラリ指定 >-----
ライブラリ種別 ==> 1

    1 私用ライブラリ

    2 共用ライブラリ

        ライブラリ名 ==>
        文書タイプ ==>

    文書識別番号指定 ==>
    (未入力の場合はシステムによって割り付けられる.)

        1 直接指定 ==>

        2 範囲指定 (始端) ==> (未入力は1)
          (後端) ==> (未入力は99999)
    
```

図3. 4 文書ライブラリ指定パネル

```

-----< 文書情報変更表示 >-----
文書情報：

    文書名「 日本語情報システム J E F の J E F II への移行について (2) 」
    カナ文書名 ==>
    作成日 ==> 85. 05. 25
    所有者 ==> F9999
    ==> ライブラリ室 (日本語)
    保存期限 ==>
    注釈「 広報用原稿-文書処理システム ODM の使用法- 」
    
```

図3. 5 文書情報変更表示パネル

図3. 4「文書ライブラリ指定パネル」では、「1」の私用ライブラリを指定する（今のところ共用ライブラリは使用不可）。ここで「文書識別番号」とは、私用ライブラリ内で文書それぞれに一意に対応する番号である。それは、使用ライブラリのメンバ名（ODMが自動的に作成する、ODM00001、ODM00002、・・・など）の数字部分に当たる。そのため、通常は文書識別番号の設定について意識する必要はない。このような理由で、文書識別番号（メンバ名）で文書を区別することは容易でないため、以下に述べるように、文書名を日本語で作成しておく方がよい。こうすれば、あとの管理ははるかに楽になる。

「文書情報変更表示パネル」（図3. 5）では、ライブラリ管理上必要な文書情報を与える。このパネルでは、カナ文字か漢字の直接入力しか行えないので、内容説明のための詳しい文書名を与えたいときなどは「TG (Title Generate) コマンドを使用するとよい。あらかじめ文書作成（編集）中に文

書名になりうる文字列（30字以内）を→TG～→TGで指定しておく、その文字列が文書名として採用され本パネル上ではすでに入力したかのように表示されることになる【付録2-6】。

文書名ほかの情報を付与されて文書が私用ライブラリに登録されたら、再び「編集後処理パネル」（図3.2）が現われるので、END（PF3）キーの押下で初期パネルに戻り、文書の作成は終了する。次回からは、すでに文書が登録済みのため、直接文書識別番号で指定するか、文書名一覧から文書を選択するか【付録2-10】の、いずれかの方法で文書を指定することができる。そのため文書名を→TGコマンドなどで日本語で作成しておくことは、特に有用である。

#### 4. 文章の入力と編集

##### 4.1 文章の入力方法

ODMのもとで動作するFDMS/JEF（FDMS/EDIT、FDMS/FORMATの総称）でも、文書を構成する入力可能なデータとしては、JEF漢字コードからなる文書文字列と書式制御コードである。そのうちの文書文字列の最も一般的な入力方法は、ローマ字またはカタカナによるカナ（ローマ字）漢字変換入力であろう。その際には、以下のような約束を守る必要がある。

- (1) 入力（単語、文節、句、文）の区切りはblankで行う。
- (2) n個blankの入力はn+1個のblankを入力する。
- (3) Nに続く母音またはYの切り離しは、；（セミコロン）で行う。【例. KIN；EN（禁煙）】
- (4) ひらがな、英小文字などを入力する時は、次に示す変換指定を用いる。

指 定	指定方法	入力例	変換結果
ひらがな指定	H/----/	H/KANA/	かな
カタカナ指定	K/----/	K/KANA/	カナ
無変換指定	/----/	/KANA/	KANA
英小文字指定	S/----/	S/KANA/	kana
単語指定	T/----/	T/MOJI/	文字
読み指定	Y/----/	Y/MOTU/	持
非漢字指定	G/----/	G/KM2/	㎓
和数字指定	W/----/	W/2158/	二千百五十八
16進コード指定	X/----/	X/B0AC/	穗
マクロ指定	Q/----/	Q/QD/	九州大学

これまでのFDMSで指定できたC変換（地名）、J変換（人名）、P変換（音読み）、R変換（訓読み）

は廃止されている。また、(3)のNに続く母音の入力でXを使う方法は使用できなくなったが、無変換指定中の井による大/小文字の反転はこれまで通り使用できる。

これらの入力は、会話によってテキストを連続して入力できる「入力モード」で行うのがよい。書式制御コードは本文と同時に入力していくのが効率的だが、清書出力と同じ形式を端末で実現する「清書モード」において、後に述べる各種の編集コマンドで与える方法も充実している。

#### 4. 2 文書の編集

これまでのFDMS（和文エディタ）と文書の編集方法に大きな違いはないが、いくつかの点で優れたところがある。それらは、

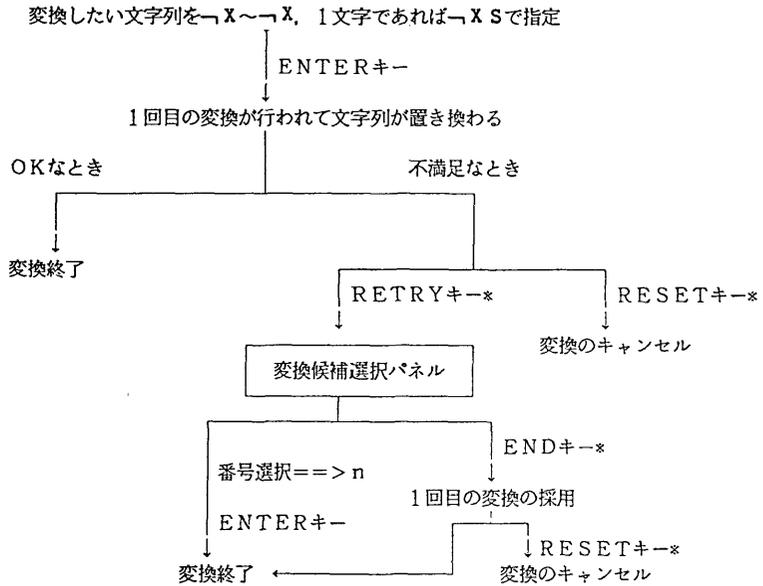
- ・清書モードでUP, DOWNキーによりページを超えたスクロールができる。
- ・清書モードでLEFT, RIGHTキーにより136桁までスクロールができる。
- ・清書モードでローカルの削除キーが使用できる。
- ・同音異義語が再変換の2度目からメニュー形式で選択できる。
- ・多様な形式の表が作れる。
- ・文書編集集中にページのレイアウトを変更できる。
- ・文書ごとに変換辞書の学習効果を保存できる。
- ・文書中にATFの数式や, EGRETのグラフを組み込める。
- ・私用辞書が使用できる。

などである。

文書の編集方法としては、ローカルなキー操作で直接行う方法とコマンドによる方法がある。ここでは、表示されている文字列の上にコマンドとオペランドを入力する「表示域コマンド」と呼ばれる編集用コマンドを中心に、主だった編集方法を紹介する。なお、文書編集時に使用できるコマンドを機能別に分類したものを、「付録1. FDMS/JEFコマンド一覧」として末尾に付した。これらの機能や使用法の詳細については、マニュアル[3]を参照されたい。

##### (1) 文字列の再変換 …… ⇐X (EXCHANGE) コマンドとRETRYコマンド

カナ漢字変換によって目的とする変換が得られなかった場合には、⇐XコマンドとPFキーに割り付けたRETRYコマンドを使って同音異義語の再変換を行う。以下に、再変換処理の方法を示す。



\*: これらの機能はPFキーに割り付けられていなければ使用できない。

文書名	0001ページ	移動量	
コマンド ==>		縦==>	HALF
(007)		清書モード==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....			

原稿の構成をする。

'原稿の構成をする'を  
'原稿の校正をする'と変換する。

↓

文書名	0001ページ	移動量	
コマンド ==>		縦==>	HALF
(007)		清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....			

原稿の→X→Xをする。

変換したい'校正'の部分に  
→X→Xと入力する。

↓ ENTER

文書名	0001ページ	移動量	
コマンド ==>		縦==>	HALF
(007)		清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....			

原稿の厚生をする。

1度目の変換が行われて、文字列が置き換わる。

↓ RETRYキー

```

-----<再変換表示画面>-----
選択番号==>7                移動量==>PAGE
選択しない場合はENDキーを押してください
-----
1. 構成    2. 厚生    3. 公正    4. 攻勢
5. 更生    6. 後世    7. 校正    8. 甦生
***終り***
    
```

正しい結果ではないので、PFキーに割り付けた再変換のためのRETRYコマンドを投入すると、同音異義語の候補がメニュー画面で現われる。番号を入力して選択する。

↓ ENTER

```

文書名                0001ページ    移動量
コマンド ==>                縦==>  HALF
(007)                清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
                                
```

原稿の校正をする。

目的とする同音異義語が得られた。

(2) 文字列の削除 ..... →D (DELETE) コマンド

削除したい文字を→D〜→Dで指定する。1文字の場合には→D Sと入力する。

```

文書名                0001ページ    移動量
コマンド ==>                縦==>  HALF
(007)                清書モード==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
削除キーの利用方法により
正しく正確に削除できます。
    
```

'方法'と'正しく'を削除する。

↓

```

文書名                0001ページ    移動量
コマンド ==>                縦==>  HALF
(007)                清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
削除キーの利用→D→Dにより
→Dし→D正確に削除できます。
    
```

'方法'と'正しく'の上に→D〜→Dと入力する。

↓ ENTER

```

文書名                0001ページ    移動量
コマンド ==>                縦==>  HALF
(007)                清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
削除キーの利用により正確に
削除できます。
    
```

該当文字列を削除して、字詰めが行われる。

(3) 文字列の挿入 ..... →I (INSERT) コマンド

挿入の場合には、ある文字の前に挿入したいときは→I B、後であれば→I Aを使う。1行には1カ所のみ、

最大10カ所(10行)まで同時に指定することができる。また、→I B、→I Aのあとに直接、入力文字

列を与えることも出来る。

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
これから、例を示します。
挿入は、ことができます。
    
```

'、'の直後に'挿入'という単語、  
'こと'の直前に「長い文字列の場合  
には、一行以上を一括して入力する」  
という文章を挿入する。

↓

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
これから↵IA SOUYUU
挿入は、↵IB NAGAI MOJIRETSUNO BAAI
NI HA ICHIGYOUIJYOU WO IKKATSU
SHITE NYUURYOKUSURU
    
```

↵IAは'↵'のある文字の直後に  
↵IBは'↵'のある文字の直前に  
挿入する。

↓ ENTER

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
これから、挿入の例を示します。
挿入は、長い文字列の場合には、一行以上を一括して入力すること  
ができます。
    
```

挿入された結果によって新しく字詰  
めされる。

(4) 文字列の置き換え ..... ↵R (REPLACE) コマンド

文字列を別の文字列で置き換えたい場合には、↵R~↵Rで囲むか、1文字であれば↵RSと指定する。こ  
の場合も、コマンドに続けて文字列を入力することができる。

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....

```

1983年	
1984年	

'1983年'を'昭和58年'  
'1984年'を'昭和59年'  
に置き換える。

↓

文書名	0001ページ	移動量				
コマンド ==>		縦==> HALF				
(007)	清書モード横==>	HALF				
..... .....10.....20.....30.....						
<table border="1"> <tr> <td>←R983←R</td> <td>SYOUWA59NEN</td> </tr> <tr> <td>←R984←R</td> <td>SYOUWA58NEN</td> </tr> </table>			←R983←R	SYOUWA59NEN	←R984←R	SYOUWA58NEN
←R983←R	SYOUWA59NEN					
←R984←R	SYOUWA58NEN					

置き換えたい範囲を←R~←Rで指定し、新文字列を入力する。異なる行であれば、複数カ所(10カ所まで)同時入力できる。

↓ ENTER

文書名	0001ページ	移動量				
コマンド ==>		縦==> HALF				
(007)	清書モード横==>	HALF				
..... .....10.....20.....30.....						
<table border="1"> <tr> <td>昭和58年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>昭和59年</td> <td></td> </tr> </table>			昭和58年		昭和59年	
昭和58年						
昭和59年						

置き換え結果。

(5) 文字列の複写 ..... ←C (COPY) コマンド

複写の場合は、文字列の範囲を←C~←C(1文字であれば←CS)で指定して、複写先は←Aか←Bで指定する。←A、←Bを複数指定するとそれぞれの位置すべてに複写される。

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)	清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....		
日本語文書処理システムについて説明します。日本語文書における.....		

'処理システム'を' 'における'の直前に複写する。

↓

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)	清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....		
日本語文書←C理システ←Cについて説明します。日本語文書←Bにおける.....		

'処'の上にカーソルを移動させ'処'、'ム'の字の上に'←C'と入力する。複写先の' 'の上に'←B'と入力する。複写先は複数カ所(最大10カ所)指定することができる。

↓ ENTER

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
日本語文書処理システムについて説明します。日本語文書処理システムにおける.....
    
```

複写された結果により再字詰めが行われる。

(6) 文字列の移動 .....  $\neg M$  (MOVE) コマンド

移動したい文字列を $\neg M \sim \neg M$  (1文字であれば $\neg MS$ ) で指定し、移動先を $\neg A$ あるいは $\neg B$ で与える。

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
それでは、この文章を表1の後ろに移動します。
                表 1
    
```

1-1		
2-1		

「この文章を表1の後ろに移動します」という文章を表1の後ろに移動する。

↓

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
それでは、 $\neg M$ の文章を表1の後ろに移動します $\neg M$ 
                表 1
    
```

1-1		
2-1	$\neg A$	

'こ', '.', 'の文字の上に' $\neg M$ ', ' $\neg M$ 'と入力する。  
移動先に' $\neg B$ 'と入力する。  
表枠横罫(上)に' $\neg B$ '又は、' $\neg A$ 'と入力すれば、表の前又は後ろを示したことになる。

↓ ENTER

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
それでは、
                表 1
    
```

1-1		
2-1		

この文章を表1の後ろに移動します。

移動された結果により再字詰めが行われる。

- (7) 揃え制御 ……  $\rightarrow$  F C (FORMAT CENTER)  
 $\rightarrow$  F L (FORMAT LEFT) コマンド  
 $\rightarrow$  F R (FORMAT RIGHT)

行データを中央揃え、左揃え、右揃えにする。これらの指定は、表のカラム内データに対しても有効である。

ただし、その行に対してのみ有効で改行でリセットされる。

```

文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
コマンド =====>                縦====> HAL F
(0 0 7)          清書モード横====> HAL F
. . . . | . . . . 1 0 . . . . 2 0 . . . . 3 0 . . . .
      昭和58年3月8日
      富士通 (株)
      文章処理
      日本語文章処理システムは長い技術の蓄積の
      もとに
    
```

1行目：右揃えにする。  
 2行目：右揃えにする。  
 3行目：中央揃えにする  
 4行目：左揃えにする。

↓

```

文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
コマンド =====>                縦====> HAL F
(0 0 7)          清書モード横====> HAL F
. . . . | . . . . 1 0 . . . . 2 0 . . . . 3 0 . . . .
      昭和 $\rightarrow$ F R年3月8日
      富 $\rightarrow$ F R (株)
      文章 $\rightarrow$ F C
      日本語文章処理システムは長い技術の蓄積の
      もとに
    
```

揃えたい行の上にカーソルを移動して、揃えコマンドを入力する。

- $\rightarrow$  F R : 右揃え
- $\rightarrow$  F C : 中央揃え
- $\rightarrow$  F L : 左揃え

揃えコマンドの有効範囲は、強制改行までなので、4行目に $\rightarrow$  F Lコマンドを入力する必要はない。これらの指定は、一画面に最大10カ所まで混在可能である。

↓

```

文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
コマンド =====>                縦====> HAL F
(0 0 7)          清書モード横====> HAL F
. . . . | . . . . 1 0 . . . . 2 0 . . . . 3 0 . . . .
      昭和58年3月8日
      富士通 (株)
      文章処理
      日本語文章処理システムは長い技術の蓄積の
      もとに
    
```

- (8) 字下げ制御 ……  $\rightarrow$  W (DOWN) コマンド

行頭の字下げまたはその解除を行う。字下げの指定は、改行又は改行相当の制御文字でリセットされる。

```

文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
コマンド =====>                縦====> HAL F
(0 0 7)          清書モード横====> HAL F
. . . . | . . . . 1 0 . . . . 2 0 . . . . 3 0 . . . .
      (1) 字下げ
      揃えたい位置にカーソルを移動させてD
      OWNコマンドを入力することによって
      段落を揃えることができます。
    
```

2行目以降の文章を'い'の位置まで字下げする。  
 カーソルを下げたい位置まで移動する。

↓

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)		清書モード横==> HALF
..... .....10.....20.....30.....		

(1) 字下げ  
 揃えた↵W位置にカーソルを移動させてD  
 OWNコマンドを入力することによって  
 段落を揃えることができます。

↵W'と入力してENTERキーを押下する。  
 ↵W'は異なる複数の行に同時入力(最大10カ所)することが可能である。

↓ ENTER

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)		清書モード横==> HALF
..... .....10.....20.....30.....		

(1) 字下げ  
 揃えたい位置にカーソルを移動させてD  
 OWNコマンドを入力することによって  
 段落を揃えることができます。

(9) ピッチ詰め ..... ↵PT (PITCH) コマンド

↵PTが入力された位置の文字列(英大文字, 英小文字, 数字及び記号)を半角文字にする。ただし, 端末には半角文字ではなく従来通りで現われる。半角の解除は↵PD (Pitch Delete) で行う。

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)		清書モード横==> HALF
..... .....10.....20.....30.....		

それでは, FDMSや,  
 KINGについて説明します。

'FDMS'と'KING'という文字列を半角文字にする。

↓

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)		清書モード横==> HALF
..... .....10.....20.....30.....		

それでは, F↵PTSや,  
 K↵PTGについて説明します。

カーソルをピッチ詰め対象となる文字列の上に移動する。  
 ピッチ詰め対象となる文字列の上に↵PTコマンドを入力すると, 一連の該当文字列をピッチ詰める。

↓ ENTER

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)		清書モード横==> HALF
..... .....10.....20.....30.....		

それでは, FDMSや,  
 KINGについて説明します。

ピッチ詰めされた結果によって再字詰めされる。

(10) 表の作成 …… ⇐ T A (TABLE ADD) コマンド

テキスト中に表を追加・挿入する。カラム数やレコード数を直接オペランドとして入力できる。

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
表を作成します。
    
```

表を作成したい文字位置にカーソルを移動させる。たとえば、'す'の上に移動する（表は指定された文字の次行に作成される）。

↓

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
表を作成しま⇐T A (5 6 6 7) 3
    
```

表の形式を⇐T Aコマンドで入力する。この場合にはカラム文字数が、それぞれ5、6、6、7文字の幅をもつカラムを3レコード作成することを指示している（カラムの幅は後で説明するカラム修飾コマンドで変更が自由にできる）。

↓ ENTER

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
表を作成します。
    
```


作表結果。

(11) 見出し追加 …… ⇐ M A (MIDASHI ADD) コマンド

図見出し・表見出しを付加する。清書出力時に、「印刷条件パネル」で目次の出力を指定すると、これらの図・表見出しも目次項目として抽出される。

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>          縦==> HALF
(007)          清書モード横==> HALF
.....|.....10.....20.....30.....
    
```

⇐M A	U R I A G E	J Y O U K Y O U	I C H I R A N

⇐M Aコマンドによって見出しを入力する。⇐M Aコマンドは、'⇐'が罫線の上を除いて、表の中であればどこに入力してもかまわない。見出し文字列は'⇐M A'の後ろに1文字のブランクを空けてから入力する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

売り上げ状況一覧


見出しがカナ漢字変換されて表示される。

(12) 表のカラム連結 ..... ◀CL (COLUMN LINK) コマンド

指定したカラム数だけ表のカラムを連結する。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

売り上げ状況一覧

	◀CL 3		

◀CLコマンドによって3つのカラムを連結させて1つのカラムにする。この場合、先頭レコードの第2カラム以降を連結するために、第2カラムに  
 '◀CL 3'と入力してから  
 ENTERキーを押下する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

売り上げ状況一覧


カラム連結結果  
 ◀CLコマンドは、一つの表の中で、異なるレコードであれば、最大10カ所に同時入力ができる。  
 なお、カラム連結を解除したい場合には、連結されているカラムの位置に  
 '◀CL 1'と入力すると解除される。

(13) 表の罫線修飾 …… ←KM (KEISEN MODIFY) コマンド

表のレコード罫線・カラム罫線・表枠罫線を変更する。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 消書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....  
 表を作成します。

売上げ状況一覧

←KM R	年度別売上推移		
分類	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
東京営業所	150	200	250 (予定)
大阪営業所	130	200	250 (予定)

第1レコードのレコード下位罫線を消去する。  
 ←KM R (RはRECORDを意味) と入力 (表中のどのカラムでも可) してからENTERキーを入力する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 消書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....  
 表を作成します。

売上げ状況一覧

—	年度別売上推移		
分類	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
東京営業所	150	200	250 (予定)
大阪営業所	130	200	250 (予定)

表レコード罫線の修飾が可能な状態となる。該当レコードの該当カラム内に- (マイナス) を入力してENTERキーを入力する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 消書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....  
 表を作成します。

売上げ状況一覧

	年度別売上推移		
分類	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
東京営業所	150	200	250 (予定)
大阪営業所	130	200	250 (予定)

ENTERキーを入力することによって指定されたカラム位置のレコード下位罫線が消去される。同時にカラム罫線、表枠罫線についても、罫線の消去、復活ができる。  
 ←KM R : レコード罫線修飾  
 ←KM C : カラム罫線修飾  
 ←KM T : 表枠罫線修飾  
 - : 罫線消去  
 + : 消去罫線の復活  
 +, - は異なるレコードなら最大30カ所同時入力ができる。

(14) 表のレコード追加 ……  $\neg$ RA (RECORD ADD) コマンド

表の中の特定のレコードの上又は下に、1個又は複数個のレコードを追加・挿入することができる。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

$\neg$ RA 2	レコード1	追加1
1986年	レコード4	追加2

追加したいレコードに $\neg$ RAコマンドとレコード数を入力してENTERキーを入力する。  
 ここでは第1レコードと第2レコードの間に二つレコードを追加する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1983年	レコード1	追加1
1986年	レコード4	追加2

(15) 表のレコード複写 ……  $\neg$ RC (RECORD COPY) コマンド

$\neg$ RCで指定したレコードを、 $\neg$ A( $\neg$ B)で指定したレコードの下(上)に複写する。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

第一位	複写例	100
$\neg$ RC	複写例	98
$\neg$ B		

複写したいレコード位置に' $\neg$ RC'と入力し、複写先に' $\neg$ A'または' $\neg$ B'と入力してENTERキーを入力する。  
 ここでは第2レコードを第3レコードの前に複写する。

↓ ENTER

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)	清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....		
第一位	複写例	100
第二位	複写例	98
第二位	複写例	98

(16) 表のレコード削除.....  $\neg$ RD (RECORD DELETE) コマンド

指定したレコード及び以降のレコードを削除する。オペランドとして、削除するレコード数を与える。省略すると、その位置のレコードのみ削除する。

文書名	0001ページ	移動量	削除したいレコードに ' $\neg$ RD' を入力してENTERキーを入力する。ここでは1982年のレコードだけを削除する。
コマンド ==>		縦==> HALF	
(007)	清書モード横==>	HALF	
..... .....10.....20.....30.....			
$\neg$ RD 2年	削除1		
1983年	削除2		
1984年	削除3		

↓ ENTER

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)	清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....		
1983年	削除2	
1984年	削除3	

(17) カラム追加 .....  $\neg$ CA (COLUMN ADD) コマンド

表中の特定のカラムに、1個又は複数個のカラムを追加・挿入する。追加・挿入後のカラム数は、30以内でなければならない。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	←CA 3	カラム4
2	カラム2	カラム4

追加したいカラムの位置に追加するカラムの幅を文字数で入力してENTERキーを入力する。ここではカラム2とカラム4の間に幅が3のカラムを一つ追加する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	カラム2		カラム4
2	カラム2		カラム4

(18) 表のカラム複写 ..... ←CC (COLUMN COPY) コマンド

←CCで指定したカラムが、←A(←B)で指定したカラムの右(左)に複写される。ただし、複写によりカラム数が30を超えるような指定はできない。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	説明←CC	機能←A
2	説明2	機能2

複写したいカラムに'←CC'を、また複写先を'←A'又は'←B'で指定してENTERキーを入力する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	説明1	機能1	説明1
2	説明2	機能2	説明2

(19) 表のカラム削除 …… -CD (COLUMN DELETE) コマンド

指定したカラムを削除する。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	説明-CD	機能1	説明1
2	説明2	機能2	説明2

削除したいカラムに '-CD' を入力する。  
 ここでは (18) の -CC コマンドで作成した表から第2カラムを削除する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	機能1	説明1
2	機能2	説明2

(20) 表のカラム修飾 …… -CM (COLUMN MODIFY) コマンド

表カラムの幅及びカラム内の揃えをする。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	日本語処理 -CM 15	第一部
2	日本語処理の 詳細についての 説明	第二部

変更したいカラムに、カラム幅を入力する。  
 ここでは、第2カラムのカラム幅を15に変更する。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....

1	日本語処理	第一部
2	日本語処理の詳細についての説明	第二部

(21) 表制御 …… ◀TM (TABLE MODIFY) コマンド

表の形式の変更, 表制御文字の調整を行う。ODMでは, ◀TAで作成される表はヘッダレコードをもって  
いないので, 本コマンドで変更できる。

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....  
 表見出し  
 Nページ

◀TM H	ヘッダ1	ヘッダ2
1	1983年	説明1
2	1984年	説明2

表ヘッダは'◀TM H'と入力してENTERキーを入力する。この指示によって表の第1レコードは表ヘッダとなり, 表が複数ページに分割した場合に自動的に各々分割されたページにおける表のヘッダとして表示・印刷される。

↓ ENTER

文書名 0001ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....  
 表見出し  
 Nページ

NO	ヘッダ1	ヘッダ2
1	1983年	説明1
2	1984年	説明2

レコードが多くなって表が複数ページに分割しても表見出しとヘッダは自動的に表示・印刷される。

文書名 0002ページ 移動量  
 コマンド ==> 縦==> HALF  
 (007) 清書モード横==> HALF  
 .....|.....10.....20.....30.....  
 表見出し  
 N+1ページ  
 ◀ 表ヘッダ

NO	ヘッダ1	ヘッダ2
3	1985年	説明3
4	1986年	説明4

(22) 表連結 …… ◀TL (TABLE LINK) コマンド

複数の表の連結および表の連結解除を行う。

文書名	0001	ページ	移動量
コマンド	===>	縦	==> HALF
(007)		清書モード横	==> HALF
.....	.....	10.....	20.....30.....

1	表1		
2	表1		
3	表2	←TL	
4	表2		

連結したい下位の表に '←TL' と入力する。

↓ ENTER

文書名	0001	ページ	移動量
コマンド	===>	縦	==> HALF
(007)		清書モード横	==> HALF
.....	.....	10.....	20.....30.....

1	表1		
2	表1		
3	表2		
4	表2		

表の連結完了。  
 なお、  
 連結した表の連結解除は、下位の表に '←TL N' と入力して ENTER キーを押下するとよい。

(23) 表削除 ..... ←TD (TABLE DELETE) コマンド

表を削除する。

(24) 空白確保 ..... ←SA (SKIP ADD) コマンド

空白を確保する。確保できる空白の大きさは、1 ページ以内である。

文書名	0001	ページ	移動量
コマンド	===>	縦	==> HALF
(007)		清書モード横	==> HALF
.....	.....	10.....	20.....30.....

1. 概要報告

57年度は、OA導入気運の拡大により、受注・売上共順調な伸びを示し、受注1538億円(56年度比 117%)、売上1477億円(56年度比 118%)となる見込みです。  
 ←SA 8, 10 年度も好調を継続できる見通しであり、それぞれ受注1922億円(57年度比 125%)、売上1722(57年度比 120%)を計画しております。

文章へのグラフ図版組みを行うために、「見込みです。」という文章の次の行に8行×10文字分の空白を確保する。  
 空白を確保したい文字の上にカーソルを移動し、  
 '←SA 行数, 文字数' を入力して ENTER キーを入力する。

↓ ENTER

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>>          縦==> HAL F
(007)          清書モード横==> HAL F
.....|.....10.....20.....30.....
1. 概要報告

57年度は、OA導入気運の拡大により、受注・売上共順調な伸びを示し、受注1538億円(56年度比 117%)、売上1477億円(56年度比 118%)となる見込みです。
また、58年度も好調を持続できる見通しであり、それぞれ受注1922億円(57年度比 125%)、売上1722(57年度比 120%)を計画しております。
    
```

空白が確保される。

(25) 空白修飾 …… -SM (SKIP MODIFY) コマンド

空白形式の変更を行う。2段抜き、確保位置・大きさの変更、図版名の付与などが出来る。このコマンドに続けて、グラフを組み込むためには- SGコマンドを使用する。

```

文書名          0001ページ      移動量
コマンド ==>>>          縦==> HAL F
(007)          清書モード横==> HAL F
.....|.....10.....20.....30.....
1. 概要報告

57年度は、OA導入気運の拡大により、受注・売上共順調な伸びを示し、受注1538億円(56年度比 117%)、売上1477億円(56年度比 118%)となる見込みです。
また、58年度も好調を持続できる見通しであり、それぞれ受注1922億円(57年度比 125%)、売上1722(57年度比 120%)を計画しております。
-SM GRAPH(Z001)
    
```

-SMコマンドにより空白へ取り込むべきグラフ図版の名前(図版データセットのメンバ名)を付加する。ここでは'Z001'というグラフ図版名が入力されている。

(26) グラフ組込み …… -SG (SKIP MERGE) コマンド

ページ内の本文領域中に確保された空白にEGRETで作成したグラフを組込む。このコマンドで図版データセット名を指定することにより、これ以前に-SMコマンドで図版名(メンバ名)が与えられていた空白にEGRETのグラフが実際に組み込まれて表示される。EGRETでのグラフの作成方法については、マニュアル[4, 5]を参照されたい。

```

文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
コマンド  ====>          縦====>  H A L F
文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
(0 0 7)          清書モード横====> H A L F
. . . . | . . . . 1 0 . . . . 2 0 . . . . 3 0 . . . . .
1. 概 要 報 告

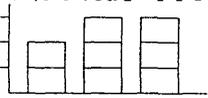
5 7 年度は、O A 導入気運の拡大により、受注・売上共順調な伸び
を示し、受注 1 5 3 8 億円 (5 6 年度比 1 1 7 %)、売上 1 4 7 7
億円 (5 6 年度比 1 1 8 %) となる見込みです。
また、5 8 年度も好調を持続できる
見通しであり、それぞれ受注 1 9 2
- S G  E G R E T .  D A T A  2 億円 (5 7 年度比 1 2 5 %)、
売上 1 7 2 2 (5 7 年度比 1 2 0
%) を計画しております。
    
```

→ S M コマンドであらかじめ図版名を  
与えていた空白に、→ S G コマンドで  
E G R E T の図版データセット名を指  
定する。

↓ ENTER

```

文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
コマンド  ====>          縦====>  H A L F
(0 0 7)          清書モード横====> H A L F
. . . . | . . . . 1 0 . . . . 2 0 . . . . 3 0 . . . . .
1. 概 要 報 告

5 7 年度は、O A 導入気運の拡大により、受注・売上共順調な伸び
を示し、受注 1 5 3 8 億円 (5 6 年度比 1 1 7 %)、売上 1 4 7 7
億円 (5 6 年度比 1 1 8 %) となる見込みです。

また、5 8 年度も好調を持続できる
見通しであり、それぞれ受注 1 9 2
2 億円 (5 7 年度比 1 2 5 %)、
売上 1 7 2 2 (5 7 年度比 1 2 0
%) を計画しております。
    
```

グラフ図版組み込み完成。

## (2.7) 数式・英文の挿入

ODMでは、A T F の数式や英文を組み込むことができる。そのためには、あらかじめ次の指定が必要であ  
る。

「ページ形式パネル」(図 3. 2) でイメージ出力 ==> 1 (要)  
「印刷条件パネル」で イメージ ==> 1 (表示)

また、数式・英文を挿入する行は前後に適当な行送りがないと正しく出力されない場合があるので注意さ  
れたい。数式・英文の組み込みは、以下の 3 つのコマンドを使用する。

```

文書名          0 0 0 1 ページ      移動量
コマンド  ====>          縦====>  H A L F
(0 0 7)          清書モード横====> H A L F
. . . . | . . . . 1 0 . . . . 2 0 . . . . 3 0 . . . . .
ODMでは簡単に数式や英文を組み込むことができる。

例. 積分は . . . . .
    
```

「積分」という文章の後ろに数式を挿  
入する。

i)  $\neg$ SS (SECTIONAL SKIP) コマンド

特定の文字、表または空白の前または後ろに、行内部分空白を確保する。

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)	清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....		
ODMでは簡単に数式や英文を組み込むことができる。		
例. 積 $\neg$ SS.....		

数式・英文用の空白を「分」という文字の後ろに確保する。  
空白を確保したい位置の前の文字に ' $\neg$ SS' コマンドを入力し、ENTERキーを入力する。  
空白が確保されると、その位置に1つの空白が表示される。

ii)  $\neg$ SI (SCIENCE TEXT INSERT) コマンド

数式・英文用空白にテキストを挿入する。

文書名	0001ページ	移動量
コマンド ==>		縦==> HALF
(007)	清書モード横==>	HALF
..... .....10.....20.....30.....		
ODMでは簡単に数式や英文を組み込むことができる。		
例. 積分 $\neg$ SI /@NP(INTEGRAL( #A; B ) F(X)DX/		

行内部分空白に数式・英文を設定する。空白を確保した位置に ' $\neg$ SI /ATF命令/' を入力しENTERキーを入力する。

iii) SINITコマンド

数式・英文処理の環境を設定する。

- ① コマンド入力行に 'SINIT' コマンドを入力する。
- ② 数式・英文処理環境設定パネルが表示されるので、パターンファイル名に 'PP1, ATF, PATLIB' を指定する。

この指定は文書ごとに行う必要があり、また、数式・英文テキストを入力後に行うと、文書編集の効率が良い。

数式・英文は挿入されても画面上には表示されず、数個の空白で表示される。

印刷例.

ODMでは簡単に数式や英文を組み込むことができる。
例. 積分 $\int_a^b f(x)dx$ は.....

#### 4. 3 私用辞書の使用法

論文などで、専門的な用語を頻繁に使用する利用者にとっては、私用辞書を利用することにより、文書作成の効率を向上させることができる。以下に、私用辞書の作成の手順を示す。

##### (1) 辞書を作成し初期化する。

私用辞書は TSS のコマンドモードで PRVDICT コマンドを使って作成する。オペランドとしては、既存でないデータセット名を与える。入力例を以下に示す。

READY

PRVDICT データセット名

DICTIONARY HAS BEEN SUCCESSFULLY INIT. . . . . システムからのメッセージ  
索引辞書を作成しました。

READY

##### (2) 辞書を指定する。

文書の作成、または、更新の「環境定義パネル」(図 3. 1) で、私用辞書名に (1) で初期化したデータセット名を指定する。

##### (3) 単語を辞書へ登録する。

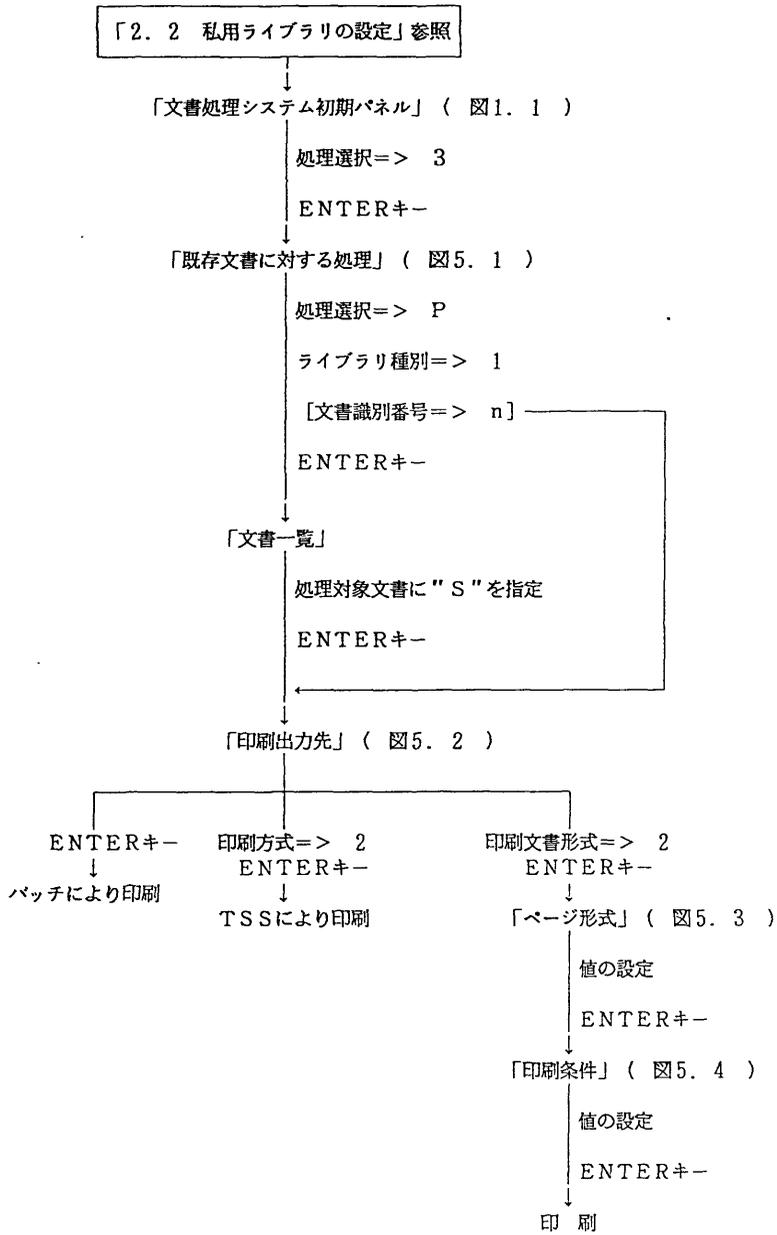
単語の私用辞書への登録は、文書の編集集中に次の順序で行う。

- (イ) 登録する単語を  $\neg T \sim \neg T$  (または  $\neg T S$ ) で指定する。
- (ロ) 単語の見出しとなる文字列を入力する。
- (ハ) 単語の見出しと登録する文字列が画面左上に出力される。
- (ニ) 誤りがないことを確認したら、ENTER キーを押して辞書へ登録する。登録しない場合は RESET キーを押す。

こうして登録した単語は、先述の T / 見出し / と入力する T 変換で見出し語を指定し、呼び出すことができる。

5. 文書の印刷

すでに登録済みの文書を清書出力するためには以下の手順で行う。



```

-----< 既存文書に対する処理 >-----
処理選択 ==> P

      B - 表示   P - 印刷   C - 複写   T - 移動   M - メール発信
      D - 削除   E - 文書の取出し   F - 文書情報変更
      I - 文書情報表示   G - 結合   空 - 文書一覧表示

ライブラリ種別 ==> 1

      1  私有ライブラリ

      2  共用ライブラリ
          ライブラリ名 ==>
          文書タイプ ==>
          キー検索 ==>                                (1:有 2:無)

文書識別番号 ==>                                (指定すると、キー検索、文書名は無視される)
文書名 ==>
カナ文書名 ==>
    
```

図 5. 1 既存文書に対する処理パネル

### 5. 1 文書形式の制御

「印刷出力先指示パネル」(図 5. 2) で印刷文書形式に 2 (印刷時指定) を指定すると「ページ形式指定パネル」(図 5. 3) が表示される。このパネルで印刷様式が指定できる。

### 5. 2 印刷条件の指定

「ページ形式指定パネル」で ENTER キーを押下すると、「印刷条件指定パネル」(図 5. 4) が表示される。このパネルでは、目次、索引、オーバーレイ、図版組込み等の印刷条件が指定できる。

項目	説明
書式オーバーレイ名 書式オーバーレイ回数	オーバーレイパターン名と、その回数を指定する。 (印刷出力先がセンタの時のみ有効)
目次印刷 索引印刷 注釈印刷	文書の目次、索引、注釈を印刷するかしないかを指定する。
索引項目表示	文書中の索引項目にアンダラインをつけて印刷するかしないかを指定する。
印刷行形式	文書を印刷する時に、文書の各レコードに付いているキーを付けて印刷するか、キーを付けずに印刷するかを指定する。
割付日付 割付時刻	文書中の日付、時刻の部分はこのパネルで指定した日付、時刻に置き換えて印刷することを指定する。(省略値: 現在の日付、時刻)
印刷時図版取込み	文書中の図版組込み指示がある個所に図版を挿入するかしないかを指定する。図版の組込みを行う場合にはその図版が入っているデータセット名をメンバ名なしで指定する。

```

-----< 印刷出力先 >-----
出力先 ==> 2
  1  端末.....端末プリンタ名 ==>                文書識別番号: 0 0 0 0 1
  2  センタ.....出力クラス   ==> 0
複写
印刷部数 ==> 1                (1-255)          | | 1 ==> 0 |
ページ複写数.....           | | 2 ==> 0 |
割付開始ページ番号 ==> 1      (1-9999)         |グ| 3 ==> 0 |
印刷ページ範囲        (1-9999)         |ル| 4 ==> 0 |
  開始 ==> 1          終了 ==> 9999         | | 5 ==> 0 |
印刷文書形式 ==> 1           |ブ| 6 ==> 0 |
  1  標準      2  印刷時指定           | | 7 ==> 0 |
印刷方式 ==> 1              | | 8 ==> 0 |
  1  バッチ    2  オンライン          +-+-----+

ジョブ文指定 (バッチ印刷方式時有効)
==> //F9999A JOB CLASS=A
==> // *
==> // *
==> // *

```

図5. 2 印刷出力先指示パネル

```

-----< ページ形式 >-----
用紙 形式 ==> 2
  1  定型用紙 ==>                (1:A4 2:B4 3:A5 4:B5)
  2  非定型用紙.....縦(行数) ==> 66          (半行間隔の倍数)
                               横(文字数) ==> 108
方向 (A4 又は B4) ==>          (1:縦長 2:横長)
本文開始行 ==> 3                (1行 (NLP, HNLP, NLPEは3行) 以上)
本文開始桁 ==> 1                (1桁 以上)
本文 段組 ==> 1
  1  一段組                      出力装置: NLP
  2  二段組.....段間文字数 ==>
行数 ==> 60                      (6行 以上)
一段当り文字数 ==> 50            (10文字 以上)
行間隔 ==> 1                      (1:6LPI 2:8LPI)
行送り間隔 ==> 1                 (1:1行 2:2行 3:3行)
文字の大きさ ==> 1              (1:9ボ 2:12ボ 3:7ボ)
本文の配置形式 ==> 2            (二段組は1のみ有効)
  1  1用紙1ページ
  2  1用紙2ページ.....ページ間文字数 ==> 6

```

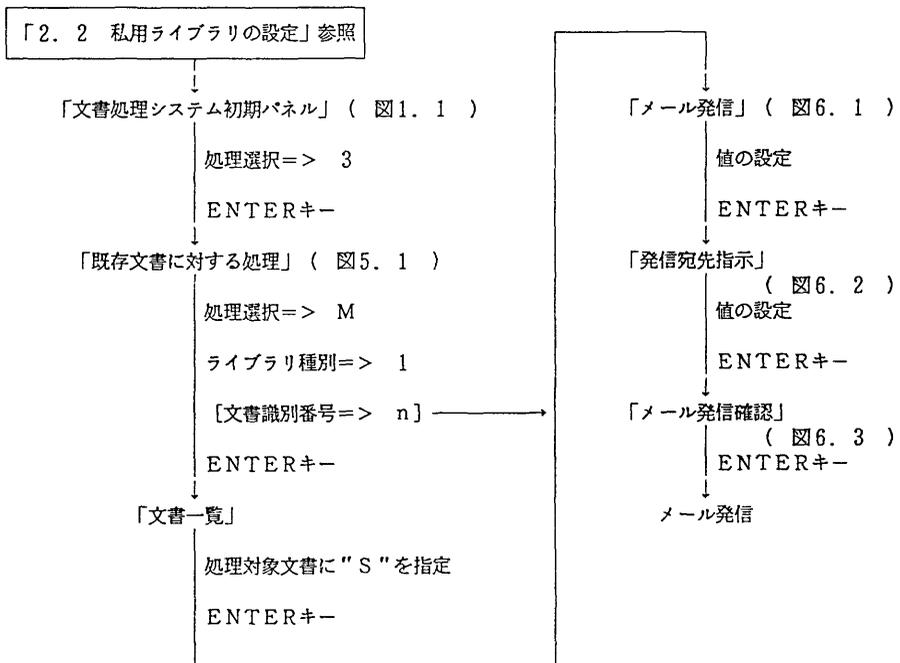
図5. 3 ページ形式指定パネル

----- < 印刷条件 > -----		
書式オーバーレイ名	==>	(4文字以内)
書式オーバーレイ回数	==>	(0-255)
追加文字セット	==>	(4文字以内)
目次印刷	==> 2	(1:有 2:無)
索引印刷	==> 2	(1:有 2:無)
注釈印刷	==> 2	(1:有 2:無)
索引項目表示	==> 2	(1:有 2:無)
印刷行形式	==> 2	(1:行番号有り 2:行番号無し)
割付日付	==> 85.05.15	(YY. MM. DD)
割付時刻	==> 15:00:00	(HH. MM. SS)
印刷時図版取り込み	==> 2	(1:有 2:無)
データセット名	==>	
ボリューム通番	==>	(カタログされていない場合)
パスワード	==>	(パスワード保護されている場合)
割付文字コード	==> 80A1	(開始16進数'80A1'以上)
	==> A0FE	(終了16進数'A0FE'以下)

図5.4 印刷条件指定パネル

6. メール機能

6.1 メール発信



メールの発信は、3枚のパネルを経由して行われる。

メール発信パネル (図6. 1) :メールの発信方法を指定するパネル

発信宛先指示パネル (図6. 2) :メールを送る宛先を指定するパネル

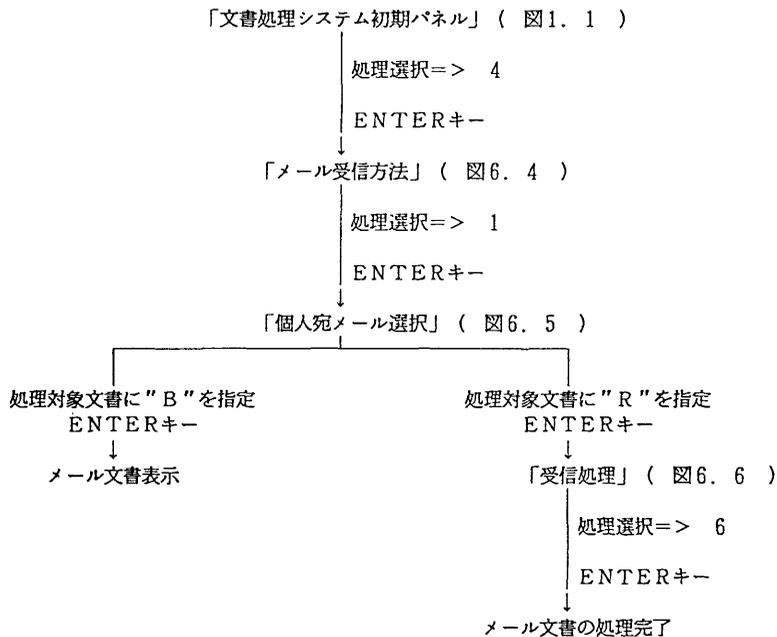
メール発信確認パネル (図6. 3) :実際に発信してよいかどうかを確認するパネル

メール発信時、宛先の利用者(受信者)に対して、メール着信通知メッセージが送られる。

例.

\* ODM \* YOUR MAIL BOX (USERPOST) HAS RECEIVED A  
MAIL BY EXPRESS AT 10:00, ON MAY 16, 1985. F9999

## 6. 2 メール受信



メール文書の受信には、主に3枚のパネルを使用する。

メール受信方法指定パネル (図6. 4) :受信を行いたいメールの受信方法を指定するパネル

メール選択パネル (図6. 5) :メール文書の選択と処理の内容を指示するパネル

メール受信処理パネル (図6. 6) :メール文書に対しての処理を選択するパネル

個人宛メール選択パネルでR(受信処理)を指示すると、メール受信処理パネルが表示され、メール文書の印刷や私用ライブラリへの保存等ができる。この時、6(完了)を選択すると、メールボックスからメールが削除され、以降、このメールに対しての処理はできなくなる。

なお、メール受信を行う際のTSSリージョンサイズは3Mバイト以上必要なので注意されたい。



```

-----< メール発信確認 >-----
メール文書名 : ODMの紹介
メール種別   : 一般      発信日時       : 85.05.16 10:00
発信種別     : 速達      発信メールボックス名: USERPOST
宛先指示     : 直接
発信履歴採取 : 有

宛先リスト情報
リスト名      作成者      作成日      注  積

直接指定先情報
ユーザ識別子  メール      利用者名      備考欄
                メールボックス名
F7777       USERPOST    F7777
F8888       USERPOST    F8888
F9999       USERPOST    F9999

メールの発信を行う場合、'ENTER'キーを押す。
発信の回避を行う場合、'END'キーを押す。
    
```

図6.3 メール発信確認パネル

```

-----< メール受信方法 >-----
処理選択 ==>> 1

1 - 個人宛
2 - メールボックス宛

      メールボックス名 ==>>

3 - 掲示板
    
```

図6.4 メール受信方法指定パネル

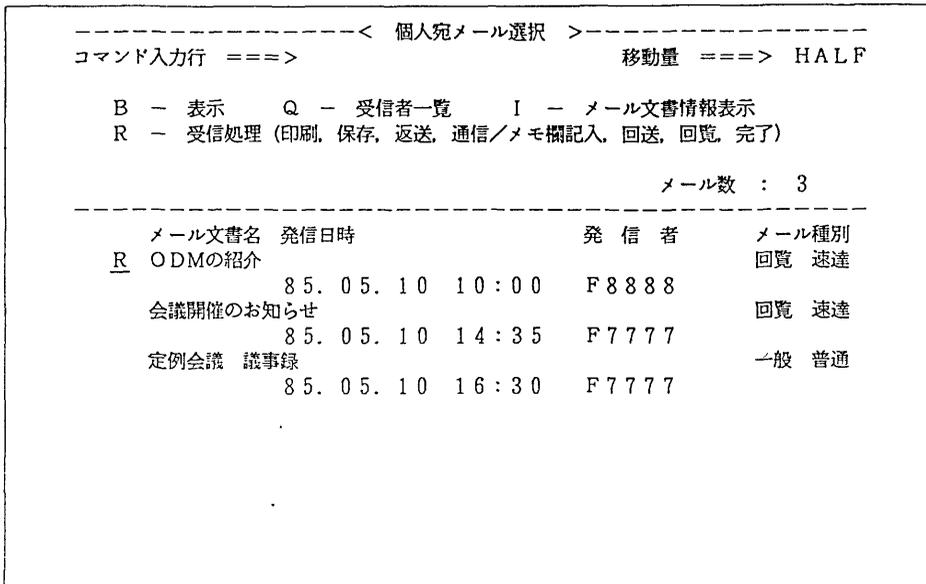


図6. 5 メール選択パネル

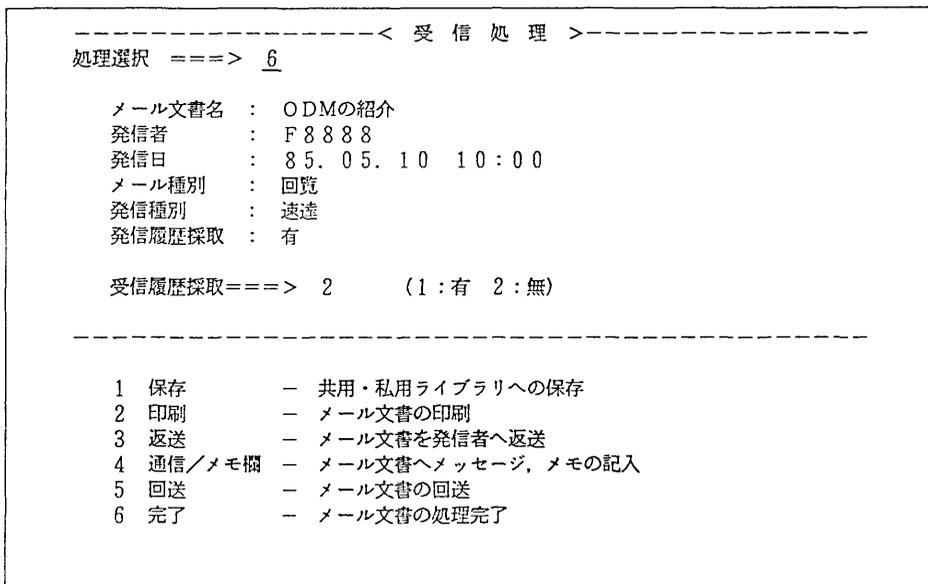


図6. 6 メール受信処理パネル

7. おわりに

以上、JEF IIの核となるソフトウェアシステムODMの使用法について解説してきた。このシステムでは、私用ライブラリの設定の仕方、PFD使用のオプションなどいくつか独自の仕様を採用しているため、マニュアル [1, 2] と異なる点が2, 3あることに注意されたい。

最後に、これらの仕様の採用に当たって、名大大型計算機センターのODMシステム [6] を参考にさせていただいた。またODMの開発元にもいろいろご協力いただいた。ここに記して感謝します。

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OSIV ODM解説書V10用 (70SG-6000-3), 富士通 (株) .
2. 計算機マニュアル FACOM OSIV ODM使用手引書V10用 (70SP-6010-3), 富士通 (株) .
3. 計算機マニュアル FACOM OSIV FDMS/JEF使用手引書V10L30系用 (70SP-7661-1), 富士通 (株) .
4. 計算機マニュアル FACOM OSIV EGRET手引書 (70SP-3590-2), 富士通 (株) .
5. 計算機マニュアル FACOM OSIV EGRET/DRAW手引書 (70SP-3640-1), 富士通 (株) .
6. 津田 日本語情報システムJEFのレベルアップについて—ODM入門—, 名大大型計算機センターニュース, 16, 1, 1985, 17-51.

## 【付録 1. FDMS / JEF コマンド一覧】

機能分類	コマンド名	機能概要
操作制御用	CURSOR	カーソルを入力行に移動する
	END	FDMS/EDITを終了する
	HELP	コマンドの機能、使用方法を表示する
	RESET	コマンドを取り消す
	RETURN	FDMS/EDITを終了する
モード切り替え用	CALL	参照モードに切り替えて、現在参照されている参照文書のテキストを表示する
	EDIT	編集モードに切り替えて、ソース形式で表示する
	FORMAT	清書モードに切り替えて、清書形式で表示する
	MACRO	マクロモードに切り替えて、マクロライブラリの内容を表示する
	MERGE	参照文書を設定し、参照モードに切り替える
テキスト一時保存用	SAVE	現在編集中のテキストを退避データセットに一時保存する
テキスト編集用	CHANGE	特定の文字列を変更または削除する
	INPUT	特定のユニットの前または後ろにテキストを挿入する
	↵C	文字列を複写する
	↵D	文字列を削除する
	↵G	現在設定されている参照文書内の文字列を組み込む
	↵IA ↵IB	文字列を追加する
	↵M	文字列を移動する
	↵R	文字列を入力文字列と置き換える
	↵SG	空白の中にグラフデータを取り組む
	↵SI	数式・英文字空白にテキストを挿入する
	↵V	英大文字・英小文字を相互に交換する
表示・検索用	BOTTOM	画面をテキストの最後に移動する
	DOWN	画面を下方に移動する
	FIND	特定の文字列を検索し表示する
	LEFT	画面を左に移動する
	LOCATE	文字列を入力文字列と置き換える

機能分類	コマンド名	機能概要
表示・検索用	PDOWN	画面を次のページの先頭に移動する
	PUP	画面を前ページの先頭に移動する
	RIGHT	画面を右に移動する
	STATUS	編集環境を表示する
	TOP	画面をテキストの先頭に移動する
	UP	画面を上方に移動する
書式編集用	PAGECONT	改ページまたは改段を解除する
	→BD	文字列の行分割禁止を解除する
	→BK	文字列を行分割禁止にする
	→CA	表のカラムを追加する
	→CC	表のカラムを複写する
	→CD	表のカラムを削除する
	→CL	表のカラムを連結する
	→CM	カラムの形式を変更する
	→FC	行の文字列を中央揃えにする
	→FL	行の文字列を左揃えにする
	→FR	行の文字列を右揃えにする
	→KM	表の形式を変更する (KM入力後+または-を入力する)
	→MA	空白・表の見出しを追加する
	→MD	空白・表の見出しを削除する
	→N	強制改行する
	→ND	強制改行を解除する
	→NP	強制改ページをする
	→PD	文字列の半角指示を解除する
	→PT	文字列を半角にする
	→RA	表のレコードを追加する
	→RC	表のレコードを複写する
→RD	表のレコードを解除する	
→SA	空白を作成する	

機能分類	コマンド名	機能概要
書式編集用	↵SD	空白を削除する
	↵SM	空白形成を変更する
	↵SS	行内部分空白を作成する
	↵TA	表を作成する
	↵TD	表を削除する
	↵TI	文書中テーブルデータを取り組む
	↵TL	複数の表を連結する
	↵TM	表の形式を変更する
	↵U	行末を字上げする
	↵W	行頭を字下げする
テキスト出力用	PRINT	現在編集中の文書を印刷する
カナ漢字変換サポート 用	DELDIC	私用辞書に登録されている単語を削除する
	MODDIC	私用辞書に登録されている単語の頻度を修正する
	RETRY	再変換を行う
	SHOW	単語や漢字の一覧を表示する
	TPCCLR	話題リストを削除する
	↵T	指定された文字列を私用辞書に登録する
	↵X	文字列の再変換をする
テキストマクロ管理用	DEFMAC	テキストマクロに登録する (文字列を入力して登録する)
	DELMAC	テキストマクロを削除する
	SAVEMAC	マクロライブラリを保存する
	↵Q	テキストマクロに登録する (文字列を選択して登録する)
ドキュメント編集用	ADDCNTL	見出し・柱・半角・分割禁止、書式制御文字の付加、付け直しまたは削除を行う
	NO	柱制御文字を付加する
	RENUMBER	見出し項目、参照番号またはテキストレコードの再編成を行う
文書情報設定用	SINIT	数式・英文処理の環境を設定する
	↵TG	文書名を設定する

【付録 2. ODMの目的別パネル操作手順】

1. ODMを起動する.
  - ① TSSのコマンドモードで、コマンド'ODM'を入力する。
  - ② ODMが起動され、文書処理システム初期パネルが表示される。
2. ODMを終了する.
  - ① 初期パネルの処理選択でX(終了)を選択するか、または、ENDキーを入力する。
3. PFキーの設定を行う.
  - ① 初期パネルの処理選択で0(属性定義)を選択する。
  - ② 属性定義パネルが表示され、処理選択で3(PFキー)を選択する。
  - ③ PFキー定義パネルが表示され、設定可能な状態になる。
4. 私用ライブラリの設定を行う.
  - ① 初期パネルの処理選択で0(属性定義)を選択する。
  - ② 属性定義パネルが表示され、処理選択で4(利用者属性変更)を選択する。
  - ③ 利用者属性変更パネルが表示され、私用ライブラリの指定を行う。
5. 文書の作成を新規に行う.
  - ① 初期パネルの処理選択で1(文書作成)を選択する。
  - ② 環境定義パネルが表示され、値を設定する。  
ページ形式が2(表示なし)の場合は⑤へ
  - ③ ページ形式パネルが表示され、値を設定する。
  - ④ 印刷条件パネルが表示され、値を設定する。
  - ⑤ 文書が作成可能な状態となる。
6. 編集中の文書データを文書名として設定する.
  - ① 文書名となる文字列(30文字以内)を~TG~TGで指定する。
  - ② ENTERキーの入力により、文字列が文書名として設定される。
7. 現在編集中の文書の清書形式を変更する.
  - ① 文書編集中のコマンド入力フィールドに'FORMAT\_DETAIL'コマンドを入力する。
  - ② ページ形式パネルが表示され、必要であれば値を変更する。
  - ③ 印刷条件パネルが表示され、必要であれば値を変更する。
  - ④ ENTERキーの入力により清書形式が変更され、文書編集モードに戻る。
8. 現在編集中の文書の環境定義、清書形式及びPFキーの内容を表示する。

- ① 文書編集中の入力フィールドに ' STATUS ' コマンドを入力する。
  - ・ STATUS DA**T**A**S**E**T** …… 環境定義の内容を表示する。
  - ・ STATUS FO**R**M**A**T …… 清書形式の内容を表示する。
  - ・ STATUS PF**K** …… PFキーの内容を表示する。
  - ・ STATUS …… 環境定義, PFキー, 清書形式の順で表示する。
- ② オペランドで指定した内容が表示されるので, ENTERキーの入力で編集モードに戻る。

## 9. 文書を保存する.

- ① 文書作成が完了したら, ENDキーを入力する。
- ② 編集後処理パネルが表示され, 処理選択で2 (保存) を選択する。
- ③ 文書ライブラリ指定パネルが表示され, 値を設定する。

文書識別番号指定で直接指定をした場合, その識別番号を持つ文書が既存であれば, 文書識別番号再設定パネルが表示され, 処理の選択, 値の設定を行う。
- ④ 文書情報変更表示パネル (更新時), または, 文書情報入力パネル (作成時) が表示され, 値を設定する。
- ⑤ ENTERキーの入力により, 文書の保存が完了する。

## 10. 文書の更新を行う.

- ① 初期パネルの処理選択で2 (文書更新) を選択する。
- ② 文書ライブラリ指定パネルが表示され, 値を設定する。

文書識別番号を指定した場合は④へ
- ③ 文書一覧パネルが表示され, 文書の選択を行う。
- ④ 環境定義パネルが表示され, 値を設定する。

ページ形式が2 (指定なし) の場合は⑦へ
- ⑤ ページ形式パネルが表示され, 値を設定する。
- ⑥ 印刷条件パネルが表示され, 値を設定する。
- ⑦ 文書が更新可能な状態となる。

## 11. 文書の置き換えを行う.

- ① 文書更新が完了したら, ENDキーを入力する。
- ② 編集後処理パネルが表示され, 処理選択で7 (置き換え) を選択する。
- ③ 文書情報変更表示パネルが表示され, 必要であれば値の変更を行う。
- ④ ENTERキーの入力により, 文書の置き換えが完了する。

## 12. 文書の印刷を行う.

1) 初期パネルが表示されている場合.

- ① 初期パネルの処理選択で3 (既存文書の処理) を選択する.
- ② 既存文書の処理パネルが表示され、処理選択でP (印刷) を選択し、その他の値を設定する.

文書識別番号を指定した場合は④へ

- ③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う.
- ④ 印刷出力先指示パネルが表示され、値を設定する.

印刷文書形式が1 (標準) の場合は⑦へ

- ⑤ ページ形式指定パネルが表示され、値を設定する.
- ⑥ 印刷条件指定パネルが表示され、値を設定する.
- ⑦ ENTERキーの入力により、文書印刷が行われる.

2) 編集後処理パネルが表示されている場合.

- ① 編集後処理パネルの処理選択で4 (印刷) を選択する.
- ② 印刷出力先指示パネルが表示され、値を設定する.

印刷文書形式が1 (標準) の場合は⑤へ

- ③ ページ形式指定パネルが表示され、値を設定する.
- ④ 印刷条件指定パネルが表示され、値を設定する.
- ⑤ ENTERキーの入力により、文書印刷が行われる.

3) 文書編集集中に印刷を行う場合.

- ① 文書編集モードで 'PRINT' コマンドを入力する.
- ② 印刷出力先指示パネルが表示され、値を設定する.

印刷文書形式が1 (標準) の場合は⑤へ

- ③ ページ形式指定パネルが表示され、値を設定する.
- ④ 印刷条件指定パネルが表示され、値を設定する.
- ⑤ ENTERキーの入力により、文書印刷が行われる.

1 3 . 文書を削除する.

- ① 初期パネルの処理選択で3 (既存文書の処理) を選択する.
- ② 既存文書の処理パネルが表示され、処理選択でD (削除) を選択し、その他の値を設定する.

文書識別番号を指定した場合は④へ

- ③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う.
- ④ 文書削除確認パネルが表示され、ENTERキーの入力で削除が完了する.

1 4 . 文書の結合を行う.

1) 文書単位で結合する。

- ① 初期パネルの処理選択で3 (既存文書の処理) を選択する。
- ② 既存文書の処理パネルが表示され、処理選択でG (結合) を選択し、その他の値を設定する。  
文書識別番号を指定した場合は④へ
- ③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う。
- ④ マージ文書指定パネルが表示され、値を設定する。  
文書識別番号を指定した場合は⑥へ
- ⑤ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う。
- ⑥ マージ処理が完了する。
- ⑦ ENDキーの入力により、マージ後処理パネルが表示される。

2) 文書の一部 (全部) を結合する。

- ① 文書編集モードで、コマンド入力行に 'MERGE' コマンドを入力する。
- ② 文書ライブラリ指定パネルが表示され、値を設定する。  
文書識別番号を指定した場合は④へ
- ③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う。
- ④ 文書が表示される。
- ⑤ 文書の組み込む部分を-G~-G (又は-GS) で指定する。
- ⑥ コマンド入力行に 'FORMAT' コマンドを入力する。
- ⑦ 再び文書編集モードになる。
- ⑧ 文書を組み込む位置を-A (又は-B) で指定する。
- ⑨ 結合処理が行われる。

1 5 . 文書の複写 (移動) を行う。

- ① 初期パネルの処理選択で3 (既存文書の処理) を選択する。
- ② 既存文書の処理パネルが表示され、処理選択でC (複写) またはT (移動) を選択し、その他の値を設定する。  
文書識別番号を指定した場合は④へ
- ③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う。
- ④ 文書ライブラリ指定パネルが表示され、値を設定する。  
文書識別番号指定で直接指定をした場合、その識別番号を持つ文書が既存であれば、文書識別番号再設定パネルが表示され、処理の選択、値の設定を行う。
- ⑤ 文書情報変更表示パネルが表示され、値を設定する。

⑥ ENTERキーの入力により、複写（移動）が行われる。

#### 16. 文書情報を表示する。

① 初期パネルの処理選択で3（既存文書の処理）を選択する。

② 既存文書の処理パネルが表示され、処理選択でI（文書情報表示）を選択し、その他の値を設定する。

文書識別番号を指定した場合は④へ

③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う。

④ 文書情報表示パネルが表示される。

#### 17. 文書情報を変更する。

① 初期パネルの処理選択で3（既存文書の処理）を選択する。

② 既存文書の処理パネルが表示され、処理選択でF（文書情報変更）を選択し、その他の値を設定する。

文書識別番号を指定した場合は④へ

③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う。

④ 文書情報変更表示パネルが表示され、文書情報の変更が可能な状態になる。

⑤ ENTERキーの入力により、文書情報は更新される。

#### 18. 文書情報一覧を印刷する。

① 初期パネルの処理選択で5（その他の機能）を選択する。

② その他の機能パネルが表示され、処理選択で2（文書情報一覧印刷）を選択する。

③ 文書情報一覧印刷パネルが表示され、値を設定する。

④ 出力先指示パネルが表示され、値を設定する。

⑤ ENTERキーの入力により、印刷される。

#### 19. 印刷依頼を取り消す。

① 初期パネルの処理選択で5（その他の機能）を選択する。

② その他の機能パネルが表示され、処理選択で6（印刷依頼取消）を選択する。

③ 印刷依頼取消パネルが表示され、値を設定する。

④ ENTERキーの入力により、印刷依頼がキャンセルされる。

#### 20. FDMS（V01）の文書を取り込む。

① 'FDMSCNV'コマンドにより、FDMS（V01）の文書をFDMS（V10）の文書に変換する。

② 'ODM'コマンドを入力し、ODMを起動する。

- ③ 初期パネルの処理選択で5 (その他の機能) を選択する。
- ④ その他の機能パネルが表示され、処理選択で1 (文書の登録) を選択する。
- ⑤ 文書の登録パネルが表示され、ファイル種別でD (一般データセット) を選択し、合わせて文書のデータセット名を指定する。
- ⑥ 文書ライブラリ指定パネルが表示され、値を設定する。  
文書識別番号指定で直接指定をした場合、その識別番号を持つ文書が既存であれば、文書識別番号再設定パネルが表示され、処理の選択、値の設定を行う。
- ⑦ 文書情報入力パネルが表示され、値を設定する。
- ⑧ ENTERキーの入力により、文書の取り込みが完了する。

## 2 1 . 退避データセットから文書の復元を行う。

- ① 初期パネルの処理選択で5 (その他の機能) を選択する。
- ② その他の機能パネルが表示され、処理選択で1 (文書の登録) を選択する。
- ③ 文書の登録パネルが表示され、ファイル種別でD (一般データセット) を選択し、合わせて退避データセット名を指定する。
- ④ 文書ライブラリ指定パネルが表示され、値を設定する。  
文書識別番号指定で直接指定をした場合、その識別番号を持つ文書が既存であれば、文書識別番号再設定パネルが表示され、処理の選択、値の設定を行う。
- ⑤ 文書情報入力パネルが表示され、値を設定する。
- ⑥ ENTERキーの入力により、文書の復元が完了する。

## 2 2 . 文書のメール発信を行う。

### 1) 初期パネルが表示されている場合。

- ① 初期パネルの処理選択で3 (既存文書の処理) を選択する。
- ② 既存文書の処理パネルが表示され、処理選択でM (メール発信) を選択し、その他の値を設定する。  
文書識別番号を指定した場合は④へ
- ③ 文書一覧パネルが表示され、文書の選択を行う。
- ④ メール発信パネルが表示され、値を設定する。
- ⑤ 発信宛先指示パネルが表示され、値を設定する。
- ⑥ メール発信確認パネルが表示される。
- ⑦ ENTERキーの入力により、文書がメール発信される。

### 2) 編集後処理パネルが表示されている場合。

- ① 編集後処理パネルの処理選択で3（メール発信）を選択する。
- ② メール発信パネルが表示され、値を設定する。
- ③ 発信宛先指示パネルが表示され、値を設定する。
- ④ メール発信確認パネルが表示される。
- ⑤ ENTERキーの入力により、文書がメール発信される。

## 23. メール受信を行う。

- 1) メール文書を表示する場合。
  - ① 初期パネルの処理選択で4（メール受信）を選択する。
  - ② メール受信方法指定パネルが表示され、受信方法を指定する。
  - ③ メール選択パネルが表示され、メール文書を" B "で選択する。
  - ④ メール文書が表示される。
- 2) メール文書の処理を完了する。
  - ① 初期パネルの処理選択で4（メール受信）を選択する。
  - ② メール受信方法指定パネルが表示され、受信方法を指定する。
  - ③ メール選択パネルが表示され、メール文書を" R "で選択する。
  - ④ メール受信処理パネルが表示され、処理選択で6（完了）を選択する。
  - ⑤ メールボックスからメールが削除され、以降、このメールに対しての処理はできなくなる。

## 24. O A S Y S で作成した文書を取り込む。

(100F/100G)

- ① 通信（パーソナルサービス）FPDをOASYSにセットする。
- ② パーソナルサービスのセットアップオペレーションでOASYS形式⇒標準文書変換を選択して転送する。

## 25. F 9 4 5 0 II - E P O W O R D - J 2 で作成した文書を取り込む。

- ① EPOWORD-J2の「補助」機能で「標準（文書）作成」機能を選択する。
- ② EPOMAIL-J（FPD提供）F9450IIにセットし、起動する。
- ③ 起動画面で文書ファイル形式を指定すると、数秒後にホスト画面が表示される。
- ④ ODM起動後、「その他の機能」の「文書の登録」を選択し、「端末」からの文書の登録を選択する。
- ⑤ F9450II側の文書ディスク機番を指定し、送信する文書を選択する。
- ⑥ 転送が終了するとODM画面となり、ライブラリ指定、文書名を入力しライブラリに格納する。